

## 「ときめき」続ける秘訣

俳優業のかたわら、舞台の演出など裏方の仕事にも携わってきました。演出のおもしろさは、自分の考えていたものにさまざまな要素が入ることで違う形に変化したり、進化していくところです。その過程はなんともいえないうまく感じや不安、プレッシャーがごちゃ混ぜになって、正直しんどい。でも、完成した作品をお客さまが観て心から楽しんでくれたときは、すべての苦労が報われた気がして、心の高ぶりが抑えられなくなりますね。

自分で原案を考えて、10年以上前からやってみたくて続いていたミュージカルがあつて、それが昨年ようやく実現しました。これは「何が何でもやりたい」と強く思い、言い続けたから。60歳にして夢が叶うということもあるんです。「もう歳だから」という理由であきらめてはいけない、このときはしみじみと思いましたね。純粹に「ときめきながら」暮らすには、「場」をいくつも持つことが必要です。

俳優  
脚本・演出家

# ラサール



「らしめるいいい」●1955年、大阪府生まれ。渡辺正行氏、小宮孝泰氏と「コント赤信号」を結成、人気を博す。以後、俳優として多くの作品に出演する一方で、舞台の脚本・演出家として、さまざまな作品を手がけてきた。さらに書籍やエッセイの執筆など、その活動は多岐にわたる。

新しく何かを知ること  
楽しむ「場」を複数持つこと  
それが「ときめき」続ける秘訣

私の場合は舞台、テレビ、趣味など。「場」がいくつもあれば、何かひとつで行き詰まったとしても、別の「場」に逃げられます。そうして逃げ続けて、最初の「場」に戻ってきたら、そこには新たなときめきがあった……なんてこともあります。

今も挑戦を続けている大学受験の勉強も、私にとっては「場」のひとつです。難しい問題に取り組んで「ああ、こういうことか!」と解けたときの達成感や、新たな知識を得たときの満足感を味わうのが楽しい。これはテレビゲームで手ごわい敵を倒したときと同じ感覚です。勉強は楽しいものです。せっかくならば勉強するんだから、毎年センター試験を受け、東京大学合格を目標にして頑張っているところです。

年齢に関係なく「何がやりたい」とか「こうなりたい」という目的や目標を持つことは大切です。それに向かって精進すればいつか必ず実現する。そう信じていけば、ときめく心を失うことはないと思います。

Lasalle Ishii

# 石井